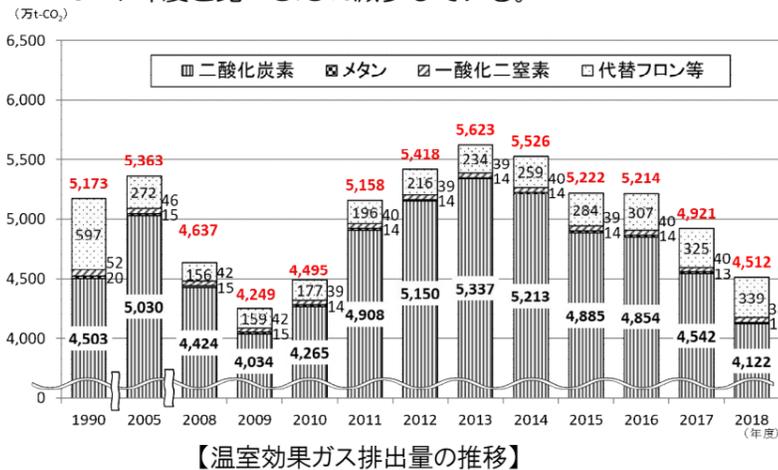


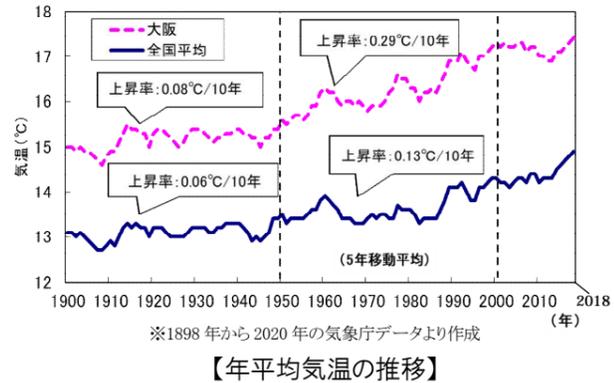
～府域の環境指標はおおむね安定的に推移しているが、地球温暖化やヒートアイランド分野など、引き続き対策が必要な状況である～

地球温暖化・ヒートアイランド

○温室効果ガスの排出量については、2018年度は、2017年度と比べ8.3%減少している。



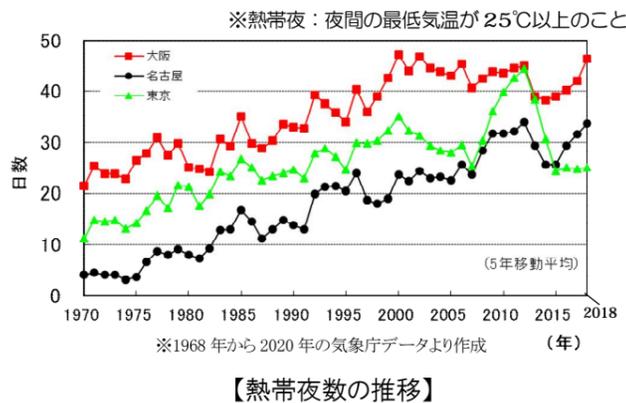
○年平均気温は、日本平均を上回る変化率で長期的に上昇している。



○太陽光発電設備の導入状況については、2019年度は103.1万kWであり、2018年度の97.2万kWと比較し、6.1%増加しています。

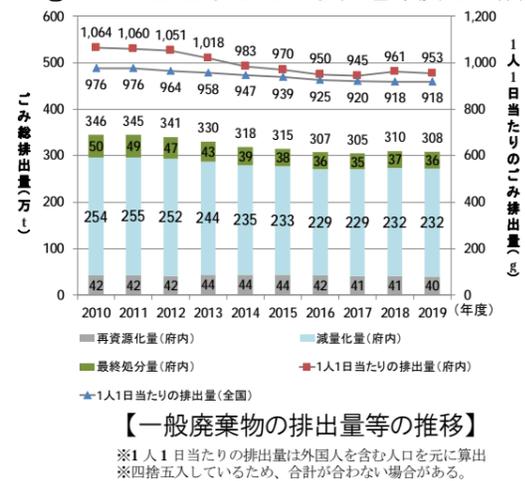


○熱帯夜数は、長期的には増加している。

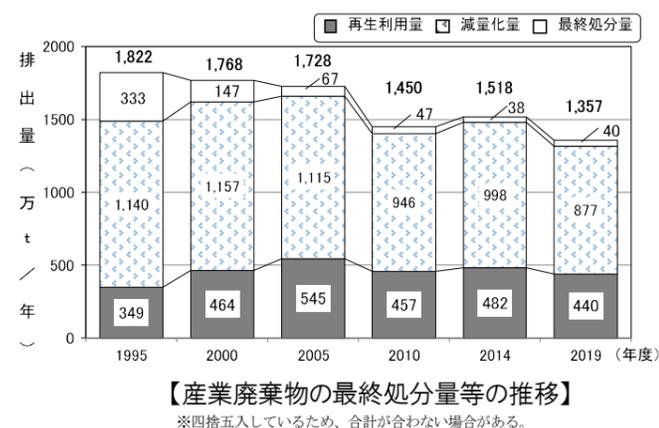


廃棄物の減量化・リサイクル

○2019年度の1人1日当たりのごみ排出量は953g/人・日となっており、近年横ばい傾向にある。

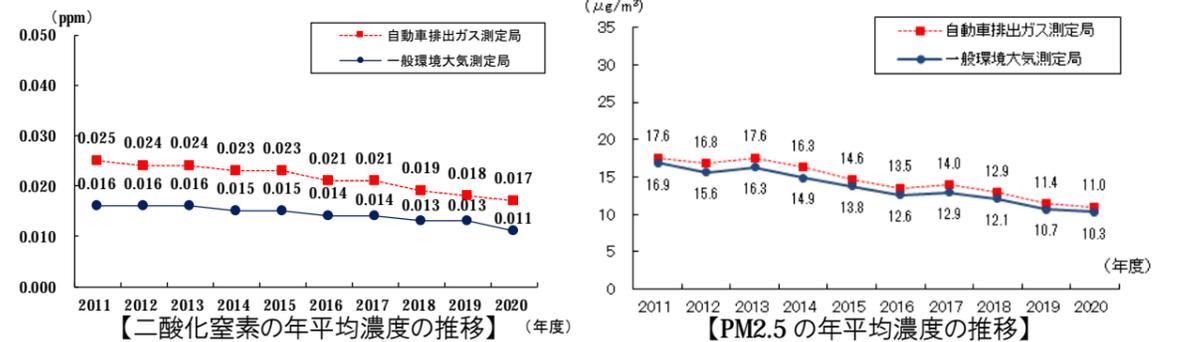


○産業廃棄物については、2019年度の最終処分量は40万トンであり、2014年度と比べ3.7%(2万トン)増加している。



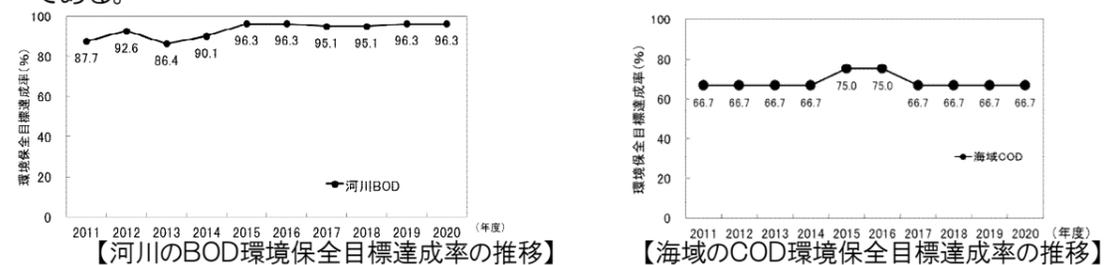
大気質

○二酸化窒素の年間98%値は環境保全目標の上限値0.06ppmを下回るレベルであり、年平均濃度も緩やかに減少している。微小粒子状物質(PM2.5)の年平均濃度は、緩やかに減少している。



水質

○河川の生物化学的酸素要求量(BOD)及び大阪湾の化学的酸素要求量(COD)(全層平均の値)の生活環境保全目標達成率は近年ほぼ横ばいであり、2020年度はそれぞれ96.3%、66.7%である。



騒音

○道路沿道における環境保全目標の達成率は改善傾向にあり、2019年度は昼・夜間ともに目標値以下の住居等の割合は94.6%である。 ※達成状況は、沿道に立地する住居等のうち、騒音レベルが目標値以下の住居等の割合を推計



化学物質

○ダイオキシン類の排出量は、2019年度は2018年度と比べて増加したものの、近年低い排出量で推移している。

○化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)対象の化学物質の排出量は概ね減少傾向にある。

